

# 浦添男子が 10年ぶりV

## 県中学新人ハンド

# 女子仲西制す

## 春の全中派遣へ

ハンドボールの第17回浦添市長杯争奪第48回県中学生大会最終日は11日、浦添市のANAスポーツパーク浦添で行われ、男子は浦添、女子は仲西が優勝した。男女優勝チームは第16回春の全国中学生選手権（3月26～29日、富山県）の出場権を獲得した。男子決勝は浦添が31―23で仲西を退け、10年ぶり6度目の栄冠を手にした。女子は仲西が25―16で浦西に勝ち、2年ぶり10度目の頂点に立った。1位を除く男女上位3チームは後日、代表決定戦を行い、各2チームが九州選抜大会（3月19～21日、大分県）に派遣される。



浦添―仲西 14得点を挙げ、優勝に貢献した浦添の石原直弥（11日、浦添市のANAスポーツパーク浦添（又吉康秀撮影）

## 浦添 左サイド猛攻 守備突き崩す

### 焦点

浦添は後半10分すぎ、左サイドからの猛攻で一気に突き放した。作戦がびたりとはまり、均衡を破って仲西の守備を崩した。

前半は点を奪い合って競る展開。石原直弥が精度の高いシュート力でゴールをこじ開けた。個人技に走り過ぎる場面もあったが、コート駆け回って躍動し14得点と活躍した。

マークがきつくなつた後半は、ポストプレーも織り交ぜながら周りにパスを供給し、勝利に貢献した。終了間際には完全に守備を崩す好プレーも飛び出した。マークを引き寄せつつ出し

たパスは、主将の山城東悟が比嘉灼孟へつながら、最後は比嘉がフエイントを挟んでネットを揺らした。チームは昨年覇者の神森と2回戦で対戦。終了間際の逆転シュートで、大接戦を制した。山城主将は「神森に勝って勢い付いた。一戦一戦集中してプレーできた」と胸を張った。4月からチームを指導してきた名嘉伸明監督は「動きを研究されていたが、選手一人一人に対応力があり、流れをつかむことができた」とたたえた。石原は「全国でも得点を重ね、勝利につなげたい」と闘志をみなぎらせた。（大城三太）

### 【男子】

#### ▽準決勝

浦 添 30  
13 17  
7 13  
6 13  
美 東

仲 西 21  
10 11  
10 17  
7 17  
浦 西

浦 西 25  
11 11  
11 23  
1 23  
美 東

浦 添 31  
19 12  
10 13  
23 仲 西

▽決勝

浦 添 31  
19 12  
10 13  
23 仲 西

▽準決勝

仲 西 20  
12 8  
7 8  
15 神 森

浦 西 15  
7 8  
4 6  
10 美 東

▽第3シード決定戦

神 森 21  
10 11  
8 7  
15 美 東

▽決勝

仲 西 25  
14 11  
11 5  
16 浦 西

浦 添 30  
13 17  
7 13  
6 13  
美 東



仲西―浦西 後半、得点を決めてチームメイトに祝福される仲西の野底桃伽（右から2人目）



男子頂点の浦添（左）女子で優勝の仲西



## 運動量武器 主導権握る

### 2年ぶりVの仲西

〇〇：仲西が豊富な運動量を武器に勝利をつかんだ。練習で毎日3キロを走るメニューを徹底してきた。基礎体力向上が粘り強い守備や速攻で生きた。

堤愛海が口火を切る最初の得点で流れを引き寄せた。主将の又吉叶、エースの野底桃伽は速攻から確実に点を奪ってけん引。163秒の長身を生かしたシュートで存在感を示した。後半8分すぎ、浦西に連続得点を許し、追いつけられる時間が続いたが、逆速攻で主導権を渡さなかつた。

又吉主将は「身長の高い全国の選手と戦うにはパスやシュートのミスがなくすることが課題になる」と春の全国選手権を見据えた。